



アメリカの卒業式

卒業式といえば日本は3月を思い浮かべるかもしれませんが、アメリカは何月かわかりますか？ じつは、6月なのです。アメリカの学校では年度のことを「アカデミック・イヤー」と言い、秋学期(9月～12月)は前期で、春学期(1月～6月)は後期です。

アメリカの卒業式の流れは、まず卒業生が入場した後、先生や校長先生が会場に入って座ります。会場は学校によって違うと思いますが、日本と同じく学校の体育館でよく行われます。私が卒業したとき、卒業生の数とお祝いに来る家族の数が多すぎたため、近くにある大学の大きな体育館で行われました。卒業生と先生たちの入場の後、校長先生からの挨拶があります。校長先生の挨拶の前に国家や校歌を斉唱する学校もあると思いますが、私の卒業式ではやりませんでした。その後、ゲストスピーカがいる場合は祝辞をもらいますが、ゲストスピーカがいない場合、次に挨拶するのは卒業生総代(1番成績が良い卒業生)です。私の卒業式では卒業生総代の他、2番目に成績が良い卒業生と最も面白いオリジナルのスピーチを校長先生に提出した人が選抜されました。日本の卒業式では在校生送辞と卒業生答辞がありますが、アメリカの卒業式では在校生からの挨拶がありません。また、卒業生からの挨拶は、後輩に「頑張つてね」というような挨拶ではなく、卒業生全員の代表として高校での体験とどのようにその体験を活かして将来の夢を果たすのかを説明するための挨拶です。

スピーチの後、卒業証書授与に入ります。全員に卒業証書を授与したら、校長先生から最後のお祝いの言葉があります。ちなみに、アメリカの卒業式の特別な衣装を見たことありますか？ 一目見ただけで、ハリーポッターを思い浮かべるような博士帽とガウンを身に着けて、ガウンの下に男性がスーツで、女性がドレスを着ます。校長先生が最後の「おめでとう」を言うと、卒業生の皆はキャップを頭から取って一斉に空へ投げます。この習慣の由来が私にもよく分かりませんが、とても楽しい作法です。

よく考えると、アメリカの卒業式は日本の卒業式とそんなに異なりませんね。でも、自分で経験してみるとアメリカの卒業式の特徴が明らかになるはずなので、機会があればぜひ行ってみてください！

American Graduation Ceremonies

In Japan, graduation ceremonies probably make you think about the month of March, but did you know that in America, graduation ceremonies actually happen in June? In America, the “fiscal year” of a school is referred to as the “Academic Year” and begins with the fall semester (September-December) and ends with the spring semester (January-June).

The procession of an American graduation ceremony begins with the students walking into the venue and taking their seats, followed closely by teachers and administrators. The type of venue used for the ceremony will differ from school to school, but they are often held in school gymnasiums, just like ceremonies in Japan. However, when I graduated there were so many family members of students who wanted to attend the ceremony that it had to be held at a local university's gymnasium. After the students and teachers have taken their seats, it is common for the principal of the school to give an opening address. Usually, before the principal speaks, the national anthem or the school song is often sung in unison, but we did not do this at my graduation. After the principal's speech, there is often a guest speaker, but if there is not a guest speaker, the next person to speak will be the valedictorian (the student in the graduating class with the highest grades). At my graduation, the salutatorian (the person with the 2nd highest grades) and the student with the best original speech submitted to the principal were also chosen to speak. In Japan, there is a tradition where the 11th graders (who are present at the ceremony) stand up and congratulate the graduating class, and the graduating seniors offer some words of encouragement to the 11th graders. In America, there is no such tradition. In fact, the 11th grade class is not present at the graduation ceremony. Instead, the students who are chosen to give speeches talk about their high school experiences on behalf of the entire class and how they intend to use these experiences to achieve their future goals.

After the speeches, diplomas are handed out. Each student is presented with his or her diploma by the principal along with some parting words of congratulation. By the way, have you ever seen the special clothing that is worn at American graduation ceremonies? The traditional dress is a cap and gown that, at a glance, would probably remind you of Harry Potter. Under the gown, men wear suits and women usually wear dresses. When the principal says his last “Congratulations!” signaling the end of the ceremony, the graduating class tosses their caps into the air. To be honest, I'm really not sure where this tradition comes from, but it's pretty fun!

If you really think about it, American and Japanese graduation ceremonies aren't so different. But you can never clearly understand the unique characteristics of an American ceremony unless you experience one for yourself, so if you have the chance, definitely go and check it out!



まえだ はる
前田 遥琉ちゃん(1歳) 宮城在



まるい げんき
丸居 玄季ちゃん(5か月) 内間在



なかね ゆあ
中根 結彩ちゃん(4か月) 牧港在

「てだっ子STUDIO」写真募集

●日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。
窓口へ直接提出可。集合写真は不可。
※被写体の子ども(ふりがな)・年齢(0か月、1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)
一言コメントの記入を忘れずに！

〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所 国際交流課
☎(876) 1234(内線2613・2614)
E-mail:kokusai@city.urasoe.lg.jp

ハイスай こちら市長室！

「映画ハクソー・リッジ」

『ハクソー・リッジ』が全国ロードショーで、来る6月24日(土)から沖縄でも上映されます。この映画は、沖縄戦時に浦添の前田高地で行われた激しい戦闘の様子が描かれたアメリカ映画で、メル・ギブソンさんが監督をしています。

前田高地一帯が激しい戦場であったことは有名ですが、実体験として留める人の数は年々減っています。また、当時の写真や資料も多くは残っていません。伝聞中心に伝えられてきた前田高地での死闘の様子を映画の中とは言えリアルに観ることを通して戦争の惨たらしさや殺し合うことの悲惨さを、戦争を知らない世代へと語り継いでいく上で大変貴重な機会になるのではないかと考えています。

この映画の中で主人公は人を殺めることを拒否し続けます。殺し合いの最前線に赴きながらも銃を手にすることなく衛生兵として命を救うことに徹する彼の崇高で勇氣ある行為に、国家が国策として殺人を行う戦争と言ふ行為の意味を考えさせられる作品です。日本兵だけでなく多くのアメリカ兵も傷つき命を落としたこと、主人公が仲間だけでなく日本兵も救ったこと、愛する家族にも重い葛藤があったこと、そして、何と言つてもこの映画が実話をもとにした作品であることなど、多くの示唆を観客に残してくれることだと期待します。

今月23日は慰霊の日です。ご存知のように現在私たちの沖縄は基地問題で揺れています。だからこそこの映画の舞台が本市である事を稀有な千載一隅の好機として活かさなくてはならないの思いを強くしております。単なるロードショーの一



浦添市長
松本 哲治

つとして鑑賞するだけで終わらず、多くの市民がこの映画を通して、これまでと違った視点から戦争の愚かさや平和の尊さ、命の重みについて見つめ直して頂けるように、本市ではいろいろな取り組みを企画しています。詳細は本市ホームページにてご参照ください。



問い合わせ
秘書課 ☎(876) 1234
(内線2563)

文化課発信

うめむー ありんくりん 第27回

～ 「ハクソー・リッジ」と呼ばれた前田高地 ～

今年のアカデミー賞で二部門を獲得したハリウッド映画「ハクソー・リッジ」。信仰上の理由から銃を持たず、衛生兵として負傷兵の応急処置や搬送を行った米兵が主人公で、映画後半の舞台が1945年(昭和20)の沖縄戦下の前田高地(浦添城跡)です(撮影はオーストラリアで行われたそうです)。

前田高地は標高約146m、北側は断層によりできた急峻な斜面と崖でこちらから攻めてきた米軍は「Maeda Escarpment」(前田断崖)と呼びましたが、「Big Escarpment」(大断崖)、「Hacksaw Ridge」ともいわれました。ハクソー・リッジとは「弓鋸の尾根」の意で、まるで金属用のノコギリである弓鋸で切断したかのように鋭く切り立っていることから名付けられたようです。米兵は麓を流れる牧港川から高低差約90mの頂上を目指し斜面と崖を登り、頂上にたどり着いたとたん高地を守る日本軍の反撃を受け、両軍とも多くの死傷者が出ました。

前田高地北側は戦後に採石が行われ地形はやや変化していますが、その陰しさは今も名残をとどめています。ちなみに浦添城跡にあるワカレジー(為朝岩)はその形から「Needle Rock」(針の岩)と呼ばれていました。



▲北側の嘉数高台から見た前田高地。米兵から「ハクソー・リッジ」と呼ばれた。

問い合わせ 文化課 内線 6 2 1 4 ・ 6 2 1 7